

第2回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1	開催日時	令和4年11月29日(火)
2	開催場所	磐田市役所西庁舎 3階 304・305 会議室
3	出席者(向陽学府小中一体校開校準備委員)	
	学識経験者	元校長 前向笠地区長
	地区代表	向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長
	保護者代表	向陽中学校PTA代表 向笠小学校PTA代表 大藤小学校PTA代表 岩田小学校PTA代表 向笠幼稚園PTA代表 大藤こども園PTA代表
	学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4	出席職員	教育長 教育総務課長
5	事務局	学府一体校推進室

会議概要

1 教育長挨拶

先日、向陽中学校に教育委員会訪問に行きました。学府の教育目標が「夢をもち 共に輝き 『あい』があふれる 児童・生徒」という4小中学校の総意でこの学府教育目標が立ち上がったと思います。この「あい」のところが本当にいいなと思っています。かかわり合いや話し合い、つながり合いなどいろいろな「あい」があると思いますが、その「あい」でつながり日本一を目指すという思いを聞かせていただきました。その思いの中に、自分や周囲、友達、自分の地域の未来を創り上げていく子供たちを育てていきたい、育ててほしいという願いが込められていると思います。これからの社会は、未来をなかなか見通せない社会ですが、こういう社会を学校教育と地域がともに創っていくというこれからの方向性を示していると感じました。本日は、新たな小学校の校名を今後どうしていくのかというところが一番の議題となりますので、よろしくお願いします。

2 議事

(1) 校名と学府一体校の形態について

事務局から校名と学府一体校の形態について説明しました。

(事務局)

令和8年度開校予定の岩田小、大藤小、向笠小が一つになる、新しい小学校の名称を検討する。磐田市立●●小学校の●●の部分の決め方を協議していく。

決まっていることは、義務教育学校ではないこと、向陽学府小中一体校は、通称名であること、中学校名は、磐田市立向陽中学校であることである。

一体校の形態は、施設一体型の未来型学府一体校、一部施設一体型の向上型学府一体校、施設分離型の充実型学府一体校がある。

他市町の事例

宇治市：宇治黄檗学園（宇治市立宇治小学校、宇治市立黄檗中学校）

箕面市：彩都の丘学園（箕面市立彩都の丘小学校、箕面市立彩都の丘中学校）

大阪市：やたなか小中一貫校（大阪市立矢田小学校、大阪市立矢田南中学校）

浜松市：中部学園（浜松市立中部小学校、浜松市立中部中学校）

庄内学園（浜松市立庄内小学校、浜松市立庄内中学校）

(委員)

他市町の小中一貫校の事例の説明があったが、一体校の事例を教えていただきたい。

→ (事務局)

この小中一体校の「一体」を使っているところは、多くないと思う。一体校も一貫校もやることは変わらない。一体を使うか、一貫を使うかという言葉の違いだけで、校名に影響を及ぼすようなことない。磐田市は、一体という言葉を使い、他市町では一貫という言葉を使うことが多いという認識でいただければよい。

(委員)

学校種別は、義務教育学校ではないということだが、教育の中身は、小学校と中学校を区別せずに子供の成長に応じた、2-5-2のカリキュラムを考えていращやると思う。これは、対外的には、小学校と中学校は別々でも、義務教育学校的な進め方をするという認識をもったがそれでよいか。

→ (事務局)

義務教育学校と小学校・中学校と違うところは、管理職の配置。義務教育学校の場合は、校長が1人、教頭が2人となる。小学校・中学校に分かれると、学校長が2人、教頭も2人というような配置となる。また、カリキュラムについては、義務教育学校の場合、学習内容の前倒しが可能となる。今回、向陽学府は、小学校・中学校という学校種別ですが、同じ敷地内に小学校と中学校が入り、学年区分を2-5-2と工夫することによって、指導の重点項目や指導の押さえを小中学校の教職員が共有し、教育を進めていくことができる。

(2) 校名の選定方法について

初めに、委員長から学校の歴史についての話と選定方法の提案をしました。

(委員長)

小学校は、明治5年に学制が発布されて、次の明治6年に、向笠小と岩田小が開校した。明治22年になって、向笠村、大藤村、岩田村ができた。そこで向笠小と岩田小ができたが、大藤小はすぐにはできずにしばらくして、向笠小の分校としてできた。そこから1、2年経って大藤小ができた。戦後、義務教育が中学までとなって、昭和22年度向笠中、大藤中ができてその翌年にすぐ向陽中ができた。この時に中学校名は公募して決めている。

3つの小学校が統合すれば、やはり学校名というものが必要になってくる。3つの案を提示させていただいた。

案1は、向陽中学があるから、向陽小でいいのではないかという考え。

案2は、3小学校が一つになって、新しい校名の方がいいという考え。

案3は、案1と案2の双方を住民に問う考え。

皆様から意見をいただきたいと思う。

(委員)

向陽学園のような名前を最初の頃は考えていたが、現時点では向陽小学校という案1に個人的には賛成。ここで校名を、全く新規に地域から募集し数多い中から決めるのは反対。案1のような形で各地区に承認していただくぐらいの募集が新小学校の名前がスムーズに決まると思う。ある程度決めてしまって皆さんに伺い、御意見ある方は意見を書いてくださいぐらいのレベルで進めていったほうが、スムーズだと思う。

(委員)

例えば向陽小学校になった場合、向陽小・中学校という形かそれとも向陽小学校中学校の併記なのか。向陽小中学校一体校というのも可能性としてはゼロではないという考え方でいいのか。

→ (教育長)

学校種でいうと義務教育学校は、9年間の一つのまとまりで出来ている、一つの学校というイメージ。あとは、小学校6年間、中学校3年間という小学校、中学校というものがある。義務教育学校は静岡県内に1校「伊豆市立土肥小中一貫校」がある。まだ多くは、6-3制で、それぞれ小学校、中学校が存在している。それを運営の中で9年間を上手につなげるということで、スタートしている学校が多い。カリキュラムは、6-3制ではなくて4-3-2のように小学4年生まで、それから中学校1年生まで、あと中3までのようなものを導入してきた学校が多い。向陽学府も基本は6-3制で2-5-2の学年区分でカリキュラムを組むが、小学校6年生で卒業式を行い、中学の入学式も行うという認識でいる。磐田市は義務教育学校ではなく、一つの小学校、一つの中学校が一つの敷地にはあって、9年間のつながりをよりよくしていく構想。それで、学校名はそれぞれ小学校、中学校という形になるため、まとめて〇〇小中一体校という表記にはならないので、そこは御理解いただきたい。

(委員)

管理のことを考えたら、名前が違ふとややこしくならないか。これまでの設計の流れからみても、案1の同じような名前の小学校と中学校というのがわかりやすく、なじみやすい。我々が説明もしやすい。

(委員)

校名については、何でもいいから出してということはまずいと思うので、やはりこちらからある程度の思いを出して、他に御意見があればというような地域への問いかけをしてもらいたいと思う。

(委員)

私も当初、向陽小学校でいいのではないかと考えたが、この先何十年地域のシンボルとなるような場所でもあるので、住民、地域の方にもこの名前を考えることに関しては、参加していただければいいと思う。また、3小学校、1中学校の子供たちに名前を考えてもらうということも、時間はかかると思うが、面白いと思う。

(委員)

公募したとしても、かなりの方が向陽小学校という名前を書いてこられると思う。ただ、もしかしたら、向陽小学校を超えるようなすばらしい校名を応募してくれる方もいらっしゃると思う。

先程の2-5-2制のことですが、例えばこれがうまくいかなかったとき、6-3制や4-3-2制にすることもあり得えますか。

→ (事務局)

この2-5-2はあくまでも学年区分の設定なので、学校が実際運用をして2-5-2を検証する中でうまくいかなければ、6-3や4-3-2などの学年区分への検討は可能。ずっと2-5-2のままいくということではない。

(委員)

公募すると、自分たちの地域の思いが入ってきてしまうと思う。3つの小学校に共通的なものというよりはやはり向陽小というのが出てくるのではないかと思う。それ以外にどの小学校も一体感があるという校名がなかなか思い浮かばないと思う。ただ、みんなに意見を聞くと思わぬものが出る可能性がないわけではないと思う。このように考えていますが、他に何かいい案がありますかと聞いてみるのがよいと思う。

(委員)

案1の向陽小学校はなじみがあり、そんな名前を残したいという気持ちもある。あとは、少し地域の方にも、案を聞くことによって、子供たちにも興味を持ってもらえると感じるので地域の方の意見を聞きつつ、最後は、準備委員会で検討して決めていくという流れのほうがよいと思う。

(委員)

案1の向陽小学校でいいと思う。向陽小学校になると思っていた。

(委員)

大体の人が向陽小学校になるのではないかと考えている。意見を聞くことは一応やっておいた方がいいのではないかと思う。

(委員)

職場で小学校の名前は何か聞いたことがあるが、皆さん向陽小と言っていたしわたくもそう思っていた。皆さんにも自分事として考えてもらうのであれば、そのアプローチの方法を考えた方がいいと思う。

(委員)

冒頭、山本教育長が地域や社会の思いは大事というお話があったと思うが、やはり地域の方に、今このような校名案をつくっていますが、地域の方はどのようにお考えですかというのは、あった方がいいと思う。また、9年間での2-5-2の学年区分は学びや子供の育ちが連続していて、どこで切れるというわけではないので個人的な考えでいくと、向陽という名前が、小学校、中学校も同一の方がつながっている感じがする。あと、委員長から説明があったとおり、協議会、PTA、教職員に今、校名をこのように考えているということを伝えていくことは、大切だと思う。

(副委員長)

皆さんの意見にあったように、自分も地域の人や保護者に少し聞かないといけないかなということは思っている。浜松市の校名決定方法は、参考にしたいと思う。向陽小学校は賛成です。2-5-2の話題がよく出ていますが、枠は9で決まっていて、それを変えていくということになるので、2-5-2もよし、やってみてこれは変えた方がいいと思えば6-3に戻すのもありかと思う。

(委員長)

皆さんにお聞きしたところ向陽小が一番いいということは、はっきりしているが、勝手に決めるわけにはいかないというところだと思う。最終的には、地域住民の多くの方の理解を得て、議会で最終決定するということになってくると思う。それぞれの団体の役員さんに、意向を伝えて感触を得るということをやリ、地域の方に出していくのがいいかと思う。

(3) 校名決定のスケジュールについて

校名決定のスケジュールについて事務局から説明した。

(事務局)

今後は、アンケートの場合のスケジュールに近い形で、進むかと思う。次回の準備委員会を1月下旬の開催とさせていただく。ここで、皆さんの意向を聞きながら、詳しい内容が決まると、3月の準備委員会において、最終決定し来年度早々皆さんに、アンケートのようなもので問うというスケジュールになると思う。令和5年度は、このアンケートをとりながら、校章や校歌の決め方を協議していく。校名が決まらなると校章や校歌を決められない。こちらはどうやって決めていくかということだけは先に決めておく。もし予算が

必要であれば、令和6年度に予算をつけるというような方向でいきたいと思う。最終的に、準備委員会として校名を令和5年中に決め、教育委員会の承認を得て、令和6年2月議会で最終決定できればと思う。